

# 市政ニュース

## 道路特定財源に関する緊急声明を発表 暫定税率廃止は道路以外にも大打撃

3月31日、市は但馬3市2町共同で道路特定財源に関する緊急声明を発表しました。その概要です。

国会は、道路特定財源の暫定税率の延長法案について、ついに結論を出さないまま、期限切れを迎えた。この問題について、国会が協議や審議すら行わないとは、一体どういふことか。政党が権力欲と政争の興奮にとりつかれ、国民生活や地方自治への配慮を捨て去った、極めて異常で憂慮すべき事態である。

これまで但馬の3市2町は、地方6団体とも歩調を合わせ、暫定税率の延長と特定財源の堅持を訴えてきた。特に暫定税率が失効すると、国、地方合わせて2.6兆円の財源が失われ、道路のみならず福祉・教育等其他の分野にも多大な悪影響が出ることを指摘してきた。暫定税率の期限切れによって、3市2町は新年度予算の

執行を一部凍結せざるをえない事態に追い込まれた。さらに暫定税率が将来にわたって失われると、平成20年度予算の大幅な減額補正を余儀なくされるだけでなく、平成21年度以降も市町財政と住民生活は大打撃を受ける。

何よりもまず、国会および政党は、何が国民にとって大切であるかについて真摯な議論を行い、「不作為」という姑息な手段によってではなく、結論を出すべきであると考えらる。かつ、3市2町として、暫定税率の確保を重ねて訴えたい。

市町行財政に責任を負う市長の立場から、地方を顧みない国会に対し抗議するとともに、一日も早く正常な状態を取り戻すよう強く求める。

なお、3月24日にも、市独自で、道路特定財源の暫定税率延長について、緊急声明を発表しました。

## 「但馬夢テーブル委員会食の安全安心グループ」から紙芝居の寄贈 紙芝居で食の安全安心を啓発

3月31日、但馬夢テーブル委員会 食の安全安心グループが制作した啓発用紙芝居（2作冊）を市に寄贈いただきました。

この紙芝居は、但馬の豊かな自然を紹介するとともに、食の安全と安心について啓発するために制作したもので、コウノトリの生態や絶滅と復活の歴史も盛り込まれ、身近でわかりやすい内容となっています。

タイトル  
・お空を飛んだメダカさん



中貝市長に紙芝居を贈る「食の安全安心グループ」の皆さん

## 防災行政無線が竹野地域で開局 防災・減災体制の新たな一歩

4月1日、防災行政無線が竹野地域で開局しました。竹野地域では、今まで有線放送により防災行政情報を伝えていましたが、平成16年の台風23号当時、停電により一部放送ができなかった地域があり、防災行政無線の整備が課題になっていました。

このため、平成19年7月から但東地域と併せて整備を進めてきました。海岸沿いには屋外スピーカーも設置し、津波警報等が発令されれば自動的に放送する仕組みも整えました。

当日は、午前7時20分から開局記念放送として中貝市長が「防災行政無線が竹野で開局した今日を、防災・減災体制の充実に向けた新たなスタートとします」と呼びかけました。

### 主な市政の動き

- 【3月】
  - 19日・市民と市長の座談会（資母地区公民館）
  - 20日・三木川改修工事起工式・市民と市長の座談会（合橋地区公民館）
  - 23日・珍坂トンネル開通式
  - 27日・高機能消防指令台完成式・市民と市長の座談会（高橋小学校）
  - 28日・市民と市長の座談会（城崎総合支所）
  - 29日・豊岡市歌発表会
- 【4月】
  - 3日・豊岡市女性交流会リフォーラムアッシュンショー
  - 6日・日高消防団消防初出式
  - 7日・市民と市長の座談会（西気地区公民館）
  - 8日・JTBクリーンアップツアー来市（15日・22日）
  - 9日・市民と市長の座談会（清滝地区公民館）
  - 10日・ヴィッセル神戸応援自動車売機の第1号機設置除幕式
  - 11日・市民と市長の座談会（八代地区公民館）
  - 12日・市民と市長の座談会（国府地区公民館）
  - 13日・市民と市長の座談会（日高農村環境改善センター・三方地区公民館）

## 弘道地区公民館が出石総合支所2階にオープン 生涯学習活動と防災の拠点施設として期待

3月29日、弘道地区公民館が出石総合支所2階にオープンし、地元建設検討委員や関係区長、行政関係者などが集り、竣工式が行われました。

同公民館は、県の「県民交流広場」事業を取り入れて交流広場や多目的ホールなどを整備しており、多様化する地域課題や生涯学習活動の需要に対応できるように、多くの人が集い、語り、学ぶこと

ができる施設になっています。また、自家発電装置の増設や来庁者にも利用しやすい幅広い階段など、防災拠点として設備の充実を図るため、総合支所の改修も併せて行いました。

当日は、地元で活動している「赤とんぼの会」「出石カトリアコーラス」「出石混声合唱団」の皆さんによるコーラスが披露され、集まった人々が



コーラスを披露する地元合唱団

美しい歌声に耳を傾けていました。

## 九州石油㈱からコウノトリ基金へ寄付を受ける コウノトリが住みやすい環境はヒトにもやさしい

3月25日、九州石油㈱（本社・東京都千代田区）からコウノトリ基金に100万円の寄付をいただきました。

同社のシンボルマークはコウノトリであり、ホームページでもコウノトリが取り上げられています。また、同社は毎年コウノトリ基金への寄付のほか、コウノトリファンクラブへの入会、さらに平成19年度は新しい支援策として、九州地方でコウノトリを題材にしたテレビコマーシャルの放映

や、社員食堂でのコウノトリ育むお米の使用、城崎町戸島湿地周辺の里山での、竹林伐採のボランティア活動への社員派遣などを行いました。寄付は今回で3回目となります。

当日は、常務取締役の松井裕さんら2人が市役所を訪れ、中貝市長に目録を手渡ししました。中貝市長が「(仮称)八チゴロウの戸島湿地整備などに活用します。この湿地は将来、日本全体でも重要な湿地になるでしょう」と話すと、松井

さんは「そのお手伝いができることを誇らしく思います」と答えていました。



PRのポスターを手にする松井常務(中)と総務グループの中井さん(右)と中貝市長

## 中貝市長の徒然日記 ⑧

たけのスタイル

竹野の元気にはずみがついてきました。

竹野の森、川、海は、市の子ども達の野生復帰大作戦の主要なフィールドです。

以前、私も体験してみました。スノーケルセンターで海に入った途端、エチゼンクラゲに遭遇。さらに浜から2、3メートルの所でタツノオトシゴを捕まえました。身近にこんな自然があるので。

これは、全国の子どもたちが売れるに違いない。そう考えていたら、竹野の人たちがさつさと戦略を立てました。名付けて「たけのスタイル」。

竹野の固有の自然、歴史、伝統、文化をそのまま楽しんでもらおうというのです。

3月下旬には、ある旅行社の環境学習旅行の担当者約120人を招いて、1泊2日で竹野の魅力をつぶりと売り込みました。ねらいは修学旅行の誘致です。

豊岡の中貝営業部長と北前館総支配人のありがたい効能

書きを聞いた後、炭焼き、シイタケのほだ木作り、塩作り、兵庫県最北端の灯台めぐり、スクモを使ったご飯炊きなどを体験して帰っていかれました。大好評でした。

「スタイル」とは何か。ファッションの世界で、伊勢丹のカリスマバイヤーとして脚光を浴びた藤巻幸夫さんが、こんなことを言っておられます。「モード」が新しいものを見つけて、人と違うぞ、ということに価値を見出すのに対し、「スタイル」は自分の生き様である。つまり、他がどうあると、これが竹野の生き方生き様である。

竹野は竹野のままがいいのです。別のものに無理に変わろうとする必要はありません。大切なことは「変わる」ことではなく「磨く」ことです。意識して「たけのスタイル」を確立することです。やがて全体としての豊岡スタイルも出来上がるに違いありません。

